

令和8年度～令和17年度  
さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画（3期）

# 南大東島

策定主体：南大東村さとうきび増産プロジェクト会議

地域において目指す姿

・生産目標	<p>第2期増産計画における達成度において、収穫面積は9年中6年目標値を上回る結果となり、単収においては9年中8年、生産量においては9年中9年、目標値を上回る結果となった。上記の結果から第2期の生産目標については妥当であったと言える。</p> <p>それらを踏まえ、第3期増産計画の最終年生産目標(令和17/18年産)は第2期計画の最終目標(令和7/8年産)を基準として算出した。面積はR7目標値を基準に合計1,320ha(令和5年産の合計実績値)で算出した。夏植単収はR7目標値から0.2t/10a増加。春植・株出の単収は0.7t/10a増加とした。作型の面積割合は、夏：春：株=7：19：74となった。生産量は86,110t(前期比+17.4%)</p>
・担い手育成目標	<p>第2期増産計画における担い手育成目標について、認定農業者数はR6で29となっており目標値の98を下回る結果となった。要因として高齢化に伴い認定農業者の継続を取りやめる農業者が増えたことがあげられる。また、自己の設備が充実したことにより認定農業者になることで得られる支援や融資の必要性が少なくなり継続を取りやめたこともあげられる。</p> <p>第3期計画においては、減少した認定者数の増加を目指し、勧誘活動を行っていく。また、受託組織数は令和6年時の数と同程度を維持していくために、機械修繕または新規導入及びその他助成事業糖を活用し活動維持のための支援等行っていくとともに個人農家の法人化または組織化の支援等を行っていく。大規模生産農家数は、令和6年時点の収穫面積が10ha以上の個人及び法人と定義し全体数の維持に努め、地域計画に基づき、農地中間管理事業を活用しながら、集約化を推進していく。</p>
・その他目標	<p>機械化一貫体制を維持しながら、スマート農業技術を活用し省力化に努め、減少傾向にある労働力の確保、生産維持していく。</p> <p>土壌改良資材の積極的導入及び島内資材を活用した土壌改良材の生産を安定させ、循環型農業を推進していく。</p>

増産計画目標

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
R6年産策定時	46	185	1,127	1,358	12.6	7.7	8.0	8.1	5,842	14,322	90,447	110,611	
R8年産	目標	85	250	920	1,255	9.4	5.2	5.7	5.8	7,990	13,000	52,440	73,430
R9年産	目標	85	250	930	1,265	9.4	5.3	5.8	5.9	7,990	13,250	53,940	75,180
R10年産	目標	85	250	940	1,275	9.4	5.3	5.8	5.9	7,990	13,250	54,520	75,760
R17年産	目標	90	250	980	1,320	9.6	5.9	6.4	6.5	8,640	14,750	62,720	86,110

(2) 担い手育成目標

	区分	認定農業者			受託組織		大規模生産農家		
		数	割合	割合	数	割合	数	割合	
R6年度策定時		29			10			27	
R8年度	目標	30			10			27	
R9年度	目標	31			10			27	
R10年度	目標	32			10			27	
R17年度	目標	39			10			28	

(3) その他地域で独自に設定する目標

		-		-		-		-
R6年度策定時		-		-		-		-
R8年度	目標	-		-		-		-
R9年度	目標	-		-		-		-
R10年度	目標	-		-		-		-
R17年度	目標	-		-		-		-

#### (4) 分析と評価

##### ① 2期計画で挙げた課題

1. 自然池や地下水を水源として干ばつ対策を行っているが、塩分濃度が高くなり土壌への悪影響が懸念されている。
2. 大型機械化一貫作業体系が進む中、長期連作、有機質の収奪等による土壌条件の悪化を改良する必要がある。
3. 畑地の主要土壌が強酸性で地力の低い国頭大東マーヅとされ、生産性向上には酸度矯正や堆肥の導入などによる土壌改良が必要。
4. 島内に畜産はあるが（平成30年）、規模が小さく他の農家に配布するだけの量は確保できない。
5. 防風・防潮林の整備を行っているが、自然災害や、寿命による倒木や立ち枯れ等もあり依然として基盤整備対策が必要。
6. 収穫機械のダウンサイジングの中で、労働力不足による日当たりの収穫量や運搬等の効率の低下が予想されるため対策が必要である。
7. タイワンカブトによる防風林のヒロウへの食害が出てきているため、対策が必要である。
8. 水源であるため池が水草の繁茂及び有機物の堆積が年々増えていて、ため池の容積が減っているため、早急な水草や堆積物の除去が必要である。
9. 現状では、ほ場整備後に水源整備を行っているため、水源確保するまで年数がかかっており、そのため、ほ場整備の際は、同時進行が必要である。
10. 南大東島の南側に、所有者が特定できない原野が多く残っており、そこが病害虫の発生源となっている。さらに、面積も広く、手が付けられない状況がつづいていて、早急な対策を県、国に要望している。
11. 増産により工場の操業期間の前進化が必要なため早期高糖性品種および低温萌芽性品種の必要性が高まっている。

##### ② ①で挙げた課題に対して解決に向け取り組んだ内容

- ・海水淡水化設備の実用化に向け実証試験等を実施し、新たな水源の確保に努めた。（①1.）
- ・島内資材(木材チップ、浮き草 等)を活用した土壌改良材の生産実証試験等を行い有機肥料の推進化を図った。（①2.）
- ・助成事業を活用しバガス・糖蜜の散布料助成、夏植えほ場の緑肥投入費助成することでほ場の土壌改善を推進した。（①2.）
- ・令和2年より土壌実態調査及び診断結果の面談を行うことで農家ごとの課題を浮き彫りにし土壌改善策実施の推進化を図った。（①2.及び3.）
- ・区画整理、勾配修正等基盤整備を実施する際、ほ場へ肥料投入することで、ほ場の土壌回線に努めた。（①3.）
- ・タイワンカブトトラップを島内随所に設置しタイワンカブトの除去に努めた。（①7.）
- ・ため池、自然池等の浮草対策として除去機材を導入し水源の整備を推進した。（①8.）
- ・基盤整備時に水兼農道を整備することで貯水池への集水率を向上し、水源確保に努めた。（①9.）
- ・F161の普及率が減り、RK97-14、Ni27号へとメイン品種が変遷した（左記2品種の合計値が全体値の5割以上）。（①11.）

##### ③ ①で挙げた課題のうち②により解決した課題

- ・①7はタイワンカブトトラップの設置により防風林への被害がなくなった。

#### ④ ①で挙げた課題のうち解決できなかった課題とその要因

- ①1. →自然池の塩分濃度を高めないため、水源を増やす必要があるが2期計画での解決とはならなかった。
- ①2. →2期計画に土壤改良材製造施設の設置が完了しなかったため。
- ①3. →農地農村整備事業により実施しているが、ほ場整備率が50%ほどであり、事業の進捗が緩やかなため。
- ①4. →動物性堆肥の代替として植物性の有機資材による土壤改良材の生成を目指しているが、製造施設等未完成のため。(①2.理由と同じ)
- ①5. →防風林等の整備は実施済だが、経年・自然災害による倒木の発生を防ぐ手段の確立ができていないため未解決。
- ①6. →ダウンサイジング化が完了していないため。
- ①8. →除去機材の導入により改善は進んでいるが依然として全体的な除去に至っていない。
- ①9. →①3.と同理由
- ①10. →県・国への要望・調整が進んでいない。
- ①11. →普及割合等の比較検討が完了していない。

#### ⑤ 新たに生じた課題

- ・大型機械化一貫体制を進める中で、老朽化による故障率の増加、機材の原価高騰による修繕費増、国内メーカーの減少等によりランニングコストが高くなってしまった。
- ・働き方改革による製糖工場の操業時間が限られたため、年内製糖開始がデフォルトとなった。それにより早期高糖性品種及び低温萌芽性品種の必要性が更に高まっている。
- ・ビレットプラントの普及により、ハーベスタでの苗取り需要が高まり新たな機材導入の必要性が高まった(苗取り専用のハーベスタ)

#### ⑥ 令和17年産目標に向けた現状評価及び見通し

- ① 貯水池の整備率が低く、今後も点滴灌漑設備の継続的な導入を行う。
- ② 株出総合管理機の活用が拡大し、生産量に大きな効果を出しているため、更なる拡大を目指す。
- ③ ハリガネムシの交信かく乱防除事業の継続および雑草防除の徹底。
  - ・土壤改良資材の積極的導入(島外産完熟堆肥の導入、島内産細砂等の利用)及び南大東島に適した土づくり等の推進を図る。
  - ・春植え栽培による生産量が上がり、夏植え(春植用の苗圃)の確保ができず、今後夏植え収穫面積の維持に向け取り組む。
  - ・JA・法人・受託農家への負担が大きく、適期植え付け肥培管理が徹底されていないことから、受託組織の育成が急務。
  - ・農地の適正利用、集約化及び流動化を促進する。(現在1戸5.85haが中間管理機構を活用しており、今後も拡大を目指す)
  - ・今後の品種構成及び作型においては大型機が必要となるため推進していく。

#### (5) 地域重点事項(地域独自で取り組んでいる重点事項を記載)

- ・適期植付、受託農家への負担や、苗の不足は未だ課題であるため、受託農家の法人化や受託組織の育成で負担軽減を図り、優良苗の計画的栽培や、ビレットプラントでの植付作業推進等で苗の確保に努める。

(6) 以下の項目のうち重要（特に議論するべき）と考える項目を3つ程度選択して✓を入れて下さい。

**1 経営基盤の強化**

農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

農業共済制度への加入促進

**2 生産基盤の強化**

気象災害に強い生産基盤の整備

機械化一貫体系の確立

地力の増進

**3 技術対策**

病虫害防除

台風・干ばつ対策

優良品種の選択・普及

**4 その他（自由記述）**


※✓した項目については、OPの「～～」を作成する

## 目標達成に向けた取組計画

### I 経営基盤の強化

#### ① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

##### 【現状】

- ・南大東村の認定農業者はH26が86名であったのに対し、R5は62名となり、24名の減少となっている。これは高齢化に伴い、再認定を行わなかった農業者が増えたことが要因として挙げられる。また、農業法人については、H26の6名に対し、R元は9名となり、その後新たに増加はしていない。担い手の高齢化は進んでいるため、今後新たな人材を確保していく必要がある。
- ・新たな人材確保に際し、島外からの労働力確保しなければならないが、受け入れるにあたり住居の提供が課題となっている。
- ・南大東村における耕作放棄地はなく、農地の有効的な活用ができています。
- ・スマート機器（農業用機械自動操舵システム、農業用ドローン）の普及率は高まりつつあり、事業等を活用し導入する農業者も増えてきている。収穫機械オペレーターの減少により、収穫効率が減少する恐れがある。
- ・収穫機械オペレーターの減少により、収穫効率が減少する恐れがある。

(担い手の育成状況)

	H26	R元	R2	R3	R4	R5
認定農業者	86	85	92	94	64	62
農業法人	6	9	9	9	9	9

【課題】

- ・収穫と株出管理作業が重なり、適期作業が出来ないため、受託組織の強化やオペレータの育成が必要である。
- ・栽培面積の確保（種苗ほの面積が多い）種苗が恒常的に不足している。
- ・新たな農業従事者の受け入れにあたり住居の提供が課題
- ・農業用機械のオペレーター確保は依然として課題

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・個人で管理作業等を受託している農家の法人化及び組織化を推進する。（村、JA、工場）
- ・農業機械やスマート機器等のオペレータ研修・メンテナンス講習会を実施する。（村、JA、工場）
- ・農業従事者向けの住居の設置（村）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・スマート農業基本計画の策定する予定である。（R7）
- ・農業従事者向け住宅設置に関する検討

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・農業従事者向けの住居の設置
- ・地域計画に基づき、農地中間管理機構を活用し、村、JA、工場等関係機関と連携し、担い手への農地集積を図る。

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### I 経営基盤の強化

#### ② 農業保険の加入促進

##### 【現状】

- ・ 南大東村では1農家あたりの経営規模が大きいため、令和6年度農業保険引受面積における加入率は70.2%となっているが、戸数については56.8%程度となっており、2期計画で定めた目標(R6時262戸\*70%=184戸)に未達となっている。  
加入内訳は畑作物共済が58戸、引受面積が287.9ha、収入保険が89戸、引受面積が666.9haとなっており、畑作物共済は加入率が22.9%、収入保険の加入率は33.9%となっている。

##### (畑作物共済の加入状況)

	R3	R4	R5	R6
加入戸数(戸)	90	71	61	58
戸数引受率(%)	34.7	27.5	23.9	22.9
引受面積(ha)	448	355	296.4	287.3
面積引受率(%)	34.4	26.8	22.4	21.1

##### (収入保険制度への加入状況)

	R6
加入戸数(戸)	89
戸数引受率(%)	33.9
引受面積(ha)	666.9
面積引受率(%)	49.1

**【課題】**

- ・ 1 農家当たり経営規模が大きく、共済掛金の負担が大きい。
- ・ 加入戸数が全体の6割程度に留まる

**【課題に対応した取組及びその実施者】**

- ・ 農業保険加入にかかる周知(ポスター掲示、チラシ 等) (村、JA)
- ・ 共済及び収入保険内容説明会の開催 (村、JA、共済組合)

**【計画】**

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 共済及び収入保険内容説明会の定期的な実施。
- ・ 生産組合の総会やさとうきびの日関連行事等に合わせ、県農業共済組合と連携し、加入促進に努める。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 共済及び収入保険内容説明会を継続的に行い、最近は収入保険への加入率はやや増加傾向にあるため、経営状態に合わせた収入保険への移行の説明を行い、加入促進を行っていく。

**【自由記述欄】** ※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ① 気象災害に強い生産基盤の整備

##### 【現状】

- ・ 令和7年7月の大雨災害による被害の中に、農業用かん水ポンプの水没による被害が多数見受けられた。
- ・ ため池・自然池付近に設置されるポンプ等灌水設備は大雨冠水の被害を受けやすく設置方法等に改善の余地がある。
- ・ また令和5年度においては記録的な干ばつによる対策を余儀なくされ、灌水の重要性が高まり灌水資材の設置需要が高まったことも挙げられる。
- ・ 台風対策としての防風林等整備について、危険木等除去を行い整備を行っている。
- ・ 植樹等については有用な樹木の検討等行う必要性がある。

##### 〈農業基盤整備の状況（R5年度）〉

- ・ 圃場整備率：51.9%
- ・ 畑地灌漑整備率：12.2%
- ・ 水源整備率：27.8%

**【課題】**

- ・かん水資材等の設備投資に負担が大きく、更に回収作業が困難な為、全体の3割程度にとどまっている。
- ・高齢化が進み干ばつ時期に適期かん水作業が出来ない。
- ・干ばつによる貯水率の低下

**【課題に対応した取組及びその実施者】**

- ・干ばつ時に備えた貯水池の整備（村、土地改良区）
- ・農業用かん水ポンプの設置方法の見直し（村、JA、土地改良区）

**【計画】**

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・大雨災害にて被災した農業用かん水ポンプの修繕

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・貯水池の整備
- ・人工池をつなぐパイプラインの設置
- ・マリンタンクの増設

**【自由記述欄】** ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ② 機械化一貫体系の確立

##### 【現状】

- ・ 植付から収穫まで一貫した機械化体系について概ね目処は立ったと言えるが、スマート技術を活用し更なる効率化、省力化に努めていかなければならない
- ・ 農業機械部品等の価格高騰で機械修繕コストが上がったことにより、農作業受託者の経営負担が増加した。
- ・ 耐用年数を大幅に超過した収穫機械が多く、修繕コストも増加している。また、スマート技術を活用した農業機械への変更を推進していく。

##### (機械稼働状況)

	H26	R 3	R 4	R 5	R 6
大型ハーベスタ	20	16	15	13	14
中型ハーベスタ	4	12	11	8	8
複合株出管理機	18	15	14	—	—

【課題】

農業機械の部品価格高騰による修繕コストの増加  
スマート技術を活用した農業機械導入の推進

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・事業等を活用し機械修繕・新規導入を推進していく。（村、JA、生産者）
- ・農業機械士会等を中心とした各種農業機械オペレータ育成研修の実施。（村、農業機械士会、JA）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

事業を活用した機械修繕  
事業を活用した機械導入(収穫機械) R7:2台 R8:1台  
事業を活用した機械導入(トラクター) R7:1台 R8:1台  
事業を活用した機械導入(ドローン) R8:1台

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

スマート技術を活用した農業機械の導入(収穫機械) R9:1台 R10:1台  
スマート技術を活用した農業機械の導入(トラクター) R9:1台 R10:1台

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ③ 地力の増進

##### 【現状】

- ・ 一括交付金を活用した土壌診断事業を継続して行っており、ほ場に合わせた改良方法の提案ができている。しかしながらその一方で島外産の肥料・土壌改良材の価格高騰等により地力増進に係るコストが高くなってきている。
- ・ 島内の有機資材(水草・トラッシュ・伐採した草木)を用いて土壌改良材を生成する事業の実証試験を実施。
- ・ 定期的な土壌実態調査を行い、診断結果の個別面談を行うことで効率的な地力増進に寄与している。
- ・ 製糖工場より生成される副産物(バガス・糖蜜)を新植ほ場及び株出ほ場に散布している。また、当該副産物は普通肥料として今後登録予定。
- ・ 事業等を活用し、バガス・糖蜜散布作業費の助成を行っている。また、夏植新植ほ場へ投入する緑肥購入費を助成し地力の増進に努めた。

**【課題】**

- ・島内の畜産農家の規模が小さく、堆肥等の投入が進んでいないのが現状である。
- ・肥料・土壌改良材の価格高騰により地力増進にかかるコストが増加している。

**【課題に対応した取組及びその実施者】**

- ・島内産の土壌改良材を生成により圃場の地力増進につなげる。（村、工場、JA）
- ・バガス・糖蜜を活用した土づくりの推進（村、工場、JA）

**【計画】**

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・土壌診断事業の継続的な実施
- ・島内産バガス・糖蜜の普通肥料登録による土づくりの推進

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・島内のバガス・木材チップ等の有機資材を活用した土壌改良材の生成

**【自由記述欄】** ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 3 技術対策

#### ① 病虫害防除

##### 【現状】

- ・ 優良種苗の確保に努め、セーフティーネット事業等の事業を活用し病虫害防除に努めた。
- ・ 国事業（生産対策）を活用し、ハリガネムシ防除のためほ場外の保安林等へのフェロモンチューブ散布を実施し、被害を抑えた。
- ・ 病虫害防除員の後継者育成ができておらず、急務である。

（ハリガネムシ交信かく乱事業実施状況）

年度	実施面積(ha)
H26	1,444
H27	1,534
H28	1,534
H29	1,550
H30	1,550
R元	1,550
R2	1,530
R3	1,530
R4	1,302
R5	1,320

【課題】

- ・病虫害防除員の育成
- ・ハリガネムシの圃場外（保安林や雑木林）での繁殖抑制
- ・バッタ類の発生が年間を通して見られる。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・病虫害に対する知識の付与(研修・講習等)
- ・フェロモンチューブ散布（村、生産農家）
- ・病虫害防除員の育成

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ハリガネムシ防除のためのフェロモンチューブ散布
- ・干ばつ時のバッタ類の発生を防除するため、かん水及び防除作業の推進

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ドローンを活用したハリガネムシ防除のためのフェロモンチューブ散布の試験実施の継続
- ・病虫害防除員育成研修の実施

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 3 技術対策

#### ② 台風・干ばつ対策

##### 【現状】

- ・ 台風対策としての防風林等整備について、危険木等除去を行い整備を行っている  
植樹等については有用な樹木の検討等行う必要性がある。
- ・ 海水淡水化実証事業を行い、新たな水資源の確保に努めている。
- ・ かん水チューブ設置及び撤去作業が重労働化しており、高齢化が進む中、かん水チューブ設置を行わない農家が出てきている。

**【課題】**

海水淡水化装置の実用化に向けた運用方法の確立  
新たなかん水設備の導入

**【課題に対応した取組及びその実施者】**

村：海水淡水化装置実用に向けた検討会の開催  
農業者：地中灌漑設備の導入等

**【計画】**

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

海水淡水化装置実用に向けた検討会の開催

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

海水淡水化装置の実用  
地中灌漑設備の導入

**【自由記述欄】** ※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 3 技術対策

#### ③ 優良品種の選択・普及

##### 【現状】

- ・ 優良種苗計画に基づいた種苗の確保に努めた。  
令和6年度実績においては春植40a、夏植40aを確保し種苗の育成に努めた。
- ・ Ni28号、F161からより早期高糖性、株出多収に優れたNi27号、RK97-14に切り替えたことにより生産性が向上した。
- ・ 収穫面積拡大による年内製糖が基本となったため、12月収穫ほ場等の品種構成を検討する必要がある。

(H26年度原種ほ設置状況)

- ・ 春植用原種ほ 15a
- ・ 春植用原種ほ 15a

(品種別収穫面積割合)

F161	Ni15	Ni26	Ni28	その他
12%	8%	13%	39%	28%

(R6年度原種ほ設置状況)

- ・ 春植用原種ほ 40a
- ・ 春植用原種ほ 40a

(品種別収穫面積割合6/7年期)

Ni27	Ni28	RK97-14	KY99-176	その他
33%	7%	26%	7%	27%

【課題】

- ・無病健全種苗の安定供給
- ・品種分散による自然災害等のリスク回避
- ・年内製糖による12月収穫に対応した品種の選定
- ・台風および干ばつに強く、多回数株出が可能な多収性・高糖性品種の導入

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・種苗管理センターからの優良種苗の増殖・配布（村、工場）
- ・現地適応試験(新品種の試験栽培)（工場）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・無病健全苗の確保および安定供給
- ・現地適応試験の実施

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・12月収穫に向く早期高糖性品種の要望・検討・導入

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア要望等

—

重点課題における関係者の役割分担と実施状況 ※令和7年度に3期目計画を立てる際は、右側の「今年度の具体的な取組計画」のみ記入。

重点項目：農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
南大東村					①認定農業者登録の呼びかけ ②受託組織の育成(講習会等の実施)	①適宜 ②講習会 1回以上開催
農業委員会					①認定農業者登録の呼びかけ ②耕作放棄地有無の点検	①適宜 ②年1回以上の点検
JA					①受託組織講習回答の参加	年1回
大東糖業(株)					-	-
農業機械士会					①受託組織講習回答の参加	年1回
さとうきび生産組合					①受託組織講習回答の参加	年1回
農業改良普及センター					①受託組織講習回答の参加	年1回
沖縄県農業共済組合(中南部支所)					-	-
農業生産法人連絡協議会					①受託組織講習回答の参加	年1回

重点項目： 地力の増進

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
南大東村					①バガス・糖蜜散布費助成 ②緑肥購入費助成	①バガス・糖蜜（散布量：15,000t） ②緑肥（面積：90ha）
農業委員会					-	-
JA					①生産資材の提供	適宜
大東糖業(株)					①バガスの提供および糖蜜の肥料登録申請	農家の希望数量を全量提供
農業機械士会					-	-
さとうきび生産組合					①土壌診断事業個別診断の受診	土壌診断実施ほ場主 80%
農業改良普及センター					-	-
沖縄県農業共済組合(中南部支所)					-	-
農業生産法人連絡協議会					①増産体制への協力	適宜

重点項目：病虫害防除

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
南大東村					①ハリガネムシフェロモンチューブ散布	1,670ha
農業委員会					-	-
JA					-	-
大東糖業(株)					-	-
農業機械士会					-	-
さとうきび生産組合					①ハリガネムシフェロモンチューブ散布 (全農家：所有ほ場)	1回
農業改良普及センター					①防風林等でのハリガネムシ被害調査	年4回
沖縄県農業共済組合(中南部支所)					-	-
農業生産法人連絡協議会					-	-

さとうきび関係事業の活用実績（R7年度～）

【国補正事業（生産対策）】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
R6補正・3次公募	令和7年度畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業のうちさとうきび生産性向上緊急支援事業（農業機械等の導入又はリース導入を伴わない取組のうち担い手・作業受託組織の育成・強化対策）	20,911,000	9,610,000	-

【セーフティネット事業】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-

【実証・研究事業（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	取組内容	総事業費	補助金	その他
R7年	茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業（甘味資源作物等支援事業のうちさとうきび産地確立実証事業）	海水淡水化装置によるかん水実証試験	12,792,300	11,629,000	1,163,300
R7年	令和7年度 沖縄振興特別推進交付金	南大東村土壌実態調査	10,340,000	8,272,000	2,068,000

【機械導入（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	導入機械	総事業費	補助金	その他
R7補正 3次公募	（スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート緊急対策事業のうち農業支援サービスの立上げ支援のうちスマート農業機械等導入支援のうち地域型サービス支援タイプ）	（事業実施主体：JA）トラクター	15,132,700	6,878,500	8,254,200
R6補正 5次公募	令和6年度畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業のうちさとうきび生産性向上緊急支援事業（農業機械等の導入又はリース導入に係る取組）	（事業実施主体：greenfield比嘉）ハーベスター	90,200,000	65,600,000	24,600,000
R6補正 5次公募	令和6年度畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業のうちさとうきび生産性向上緊急支援事業（農業機械等の導入又はリース導入に係る取組）	（事業実施主体：アグリサポート南大東）ハーベスター	65,516,000	53,604,000	11,912,000

【市町村単独事業】

事業年度	市町村名	事業名	取組内容	予算額	実績額
R7	南大東村	令和7年度南大東村さとうきびスマート農業基本計画策定事業	さとうきびスマート農業基本計画の策定	13,487,210	-

(参考情報①)

## 1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

- ・南大東島は、那覇から東方約360kmの太平洋に位置している。
- ・東西5.78km、南北約6.54km、周囲20.8km、面積30.52km<sup>2</sup>
- ・人口1,448人(平成17年国勢調査)1,283人(平成27年10月末現在[住民基本台帳より])
- ・人口1,329人(平成27年国勢調査)1,261人(令和3年4月末現在[住民基本台帳より])
- ・世帯数 690世帯(令和3年4月末現在[住民基本台帳より])
- ・平均気温23.6度。年間降水量1,622.9mm(平年値2010~2019年)
- ・産業別就業構造は、第1次産業が26.37%、第2次産業が30.48%、第3次産業が43.02%(令和元年版2019年沖縄県統計年鑑より)
- ・農業産出額は215千万円(H30)で、さとうきび(158千万円)、が主な農産物となっている。(令和元年3月農業関係統計より)
- ・一戸当たりの経営規模は、約8haで経営耕地面積は広く、大型機械化一貫作業体系による大規模経営が確立している。本村の耕地面積は1,830haで主要作物はさとうきびであり、一部にカボチャが栽培されている。

## 2. さとうきび生産の現状

南大東村ではさとうきびが基幹作物となっており、令和6年産の収穫面積が1,358haと耕地面積の約74%となっている。作型においては、株出栽培が最も多く5年間の平均データでは全体の約83%を占めており、さとうきび品種においても、株出多収型の品種(Ni27、RK97-14)が好まれ、近年のメイン品種となっている。

生産体制においては、植付から収穫まで農業機械化一貫体系を確立しており、またGPSによる自動操舵システムを搭載した農業機械での植付・収穫作業やドローンによる農薬散布など、スマート農業技術の普及化も進めている。一方、高齢化等の要因により新規認定農業者、再認定等は減少傾向にあり、農作業の全てを作業受託者に依頼している農家も増えてきているため、法人育成・担い手確保が課題となっている。

### 【近年の作物別作付面積の動向】

#### (1) 作物別作付け面積の動向

	耕地面積	作付面積	耕作放棄地	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	飼料作物	その他
H17	1830	1184	-	1184	-	-	-	-	-
H18	1830	1135	-	1135	-	-	-	-	-
H19	1830	1216	-	1216	-	-	-	-	-
H20	1830	1266	-	1266	-	-	-	-	-
H21	1830	1292	-	1292	-	-	-	-	-
H22	1830	1240	-	1240	-	-	-	-	-
H23	1830	1206	-	1206	-	-	-	-	-
H24	1830	1229	-	1229	-	-	-	-	-
H25	1830	1211	-	1211	-	-	-	-	-
H26	1830	1144	-	1144	-	-	-	-	-
H27	1830	1154	-	1154	-	-	-	-	-
H28	1830	1170	-	1170	-	-	-	-	-
H29	1830	1183	-	1183	-	-	-	-	-
H30	1830	1202	-	1202	-	-	-	-	-
R元	1830	1319	-	1319	-	-	-	-	-
R2	1830	1296	-	1296	-	-	-	-	-
R3	1830	1302	-	1302	-	-	-	-	-
R4	1830	1320	-	1320	-	-	-	-	-
R5	1830	1320	-	1320	-	-	-	-	-
R6	1830	1358	-	1358	-	-	-	-	-

#### (2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				糖度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	81	279	822	1,182	43.7	22.0	23.6	25	3,539	6,140	19,419	29,098	12.3
H18	122	225	786	1,133	56.7	42.5	36.8	40	6,916	9,557	28,891	45,364	13.08
H19	110	253	851	1,214	81.7	60.9	62.2	64	8,989	15,398	52,947	77,334	13.52
H20	120	240	906	1,266	85.3	66.2	64.9	67	10,231	15,849	58,816	84,896	14.3
H21	101	298	914	1,313	70.4	35.3	43.2	44	7,111	10,531	39,503	57,145	13.5
H22	56	226	958	1,240	80.8	55.4	55.9	57	4,496	12,502	53,578	70,576	11.9
H23	91	258	857	1,206	61.3	44.6	46.1	47	5,553	11,506	39,518	56,577	13.6
H24	79	197	952	1,228	61.7	42.1	42.7	44	4,876	8,310	40,667	53,853	14.2
H25	85	208	918	1,211	58.5	34.2	35.2	37	4,978	7,105	32,309	44,392	14.4
H26	77	126	942	1,145	55.0	35.3	35.7	37	4,209	4,432	33,597	42,238	13.1
H27	75	212	865	1,152	68.7	45.6	47.1	48	5,210	9,681	40,802	55,693	12.65
H28	78	180	911	1,169	121.3	87.3	82.4	86	9,466	15,777	75,140	100,383	13.54
H29	64	183	934	1,181	65.5	48.9	49.0	50	4,219	8,961	45,865	59,045	13.26
H30	46	208	947	1,201	93.3	70.6	72.0	73	4,294	14,694	68,192	87,180	13.94
R元	61	221	991	1,273	118.4	76.4	80.4	82	7,221	16,895	79,703	103,819	13.89
R2	54	169	1073	1296	120.7	73.7	81.1	82	6,520	12,455	87,022	105,997	14.11
R3	44	195	1062	1301	91.9	61.9	62.0	63	4,044	12,070	65,853	81,967	15.38
R4	54	173	1093	1320	106.1	60.9	64.4	66	5,778	10,549	70,421	86,748	13.4
R5	32	172	1116	1320	75.3	51.5	53.4	54	2,463	8,829	59,578	70,870	14.27
R6	46	185	1127	1358	125.9	77.2	80.3	81	5,842	14,322	90,447	110,611	13.43

(参考情報②)

【年齢階層別農家戸数】

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
H17							0
H18							0
H19	5	16	61	44	61		187
H20	5	14	56	55	64		194
H21	4	19	50	61	67		201
H22	8	21	54	78	77		238
H23	4	17	38	71	80		210
H24	6	17	40	84	84		231
H25	4	17	35	92	90		238
H26	4	13	28	84	87		216
H27	3	13	27	86	43	57	229
H28	1	20	25	87	48	54	235
H29	3	18	28	90	51	52	242
H30	5	17	29	76	62	54	243
R元	7	14	33	68	75	58	255
R2	4	18	30	66	75	64	257
R3	5	19	28	56	88	59	255
R4	6	18	27	54	87	61	253
R5	2	19	24	51	96	64	256
R6	1	16	27	47	92	80	263

【経営（収穫）規模別農家戸数】

	100a未満	100～300a 未満	300～500a 未満	500a以上	合計
H17	23	59	47	108	237
H18	18	61	59	101	239
H19	21	64	49	100	234
H20	16	64	44	112	236
H21	18	60	50	115	243
H22	18	70	53	101	242
H23	18	70	53	101	242
H24	21	66	44	121	252
H25	23	74	49	98	244
H26	23	74	49	98	244
H27	24	60	56	90	230
H28	24	68	48	94	234
H29	23	74	49	95	241
H30	24	74	48	95	241
R元	20	77	56	97	250
R2	23	68	64	99	254
R3	25	76	60	98	259
R4	29	67	63	97	256
R5	26	67	57	110	260
R6	23	75	59	106	263

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	34.24	36	9.49	21.6
H18	53.37	47	10.15	15.51
H19	90.98	78	10.98	12.6
H20	99.88	86	12.01	10.85
H21	67.23	63	11.03	16.7
H22	83.03	72	9.73	12.61
H23	66.56	62	11	17.87
H24	63.36	59	11.89	18.41
H25	52.23	65	12.1	16.72
H26	49.69	62	10.88	17.04
H27	65.52	62	10.59	17.13
H28	118.09	103	11.16	10.76
H29	69.46	62	10.43	13.97
H30	102.56	83	11.34	12.97
R元	122.14	91	11.36	12.26
R2	124.7	98	10.89	11.63
R3	96.43	81	11.46	13.46
R4	102.06	81	10.66	13.23
R5	83.38	68	11.38	12.76
R6				

(参考情報③)

【作業受託組織の状況】

	農作業受託組織数			農作業受託調整組織の有無と役割		
	合計	組織	個人	有無	名称	役割
R7	9	9	0	有	作業体系ワーキンググループ	作業体系改善及び単価設定等

【作業委託料金】

作業名	料金	料金の設定方法及び島内の料金体系	備考
収穫	2,750	法人個人統一している(トンあたり単価)	-
植付	15,400	法人個人統一している(10aあたり単価)	-
株出管理	3,850	法人個人統一している(10aあたり単価)	-
防除	2,200	法人個人統一している(10aあたり単価)	-
その他	0	-	-

(参考情報④)

【畑地かんがいの整備状況】

	貯水施設		畑地かんがい 整備率	かん水方法			畑地かんがい整備の現状と 整備率向上に向けた今後の取組
				形態	使用料金	使用条件等	
R7	地下ダム	なし	16%	点滴かん水	各水利組合組織管理 (水量で料金換算)	なし	農家への基盤整備等の推進 地中灌漑設備の導入推進
	ダム	なし					
	ため池	19					
	その他	1					

(参考情報⑤)

【共済加入目標】

	H26	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	-	253	261	265	265	265	265
加入戸数	-	58	60	62	64	70	80
戸数引受率(%)	-	22.9	22.9	23.3	24.1	26.4	30.1
対象面積(ha)	-	1294	1320	1320	1320	1320	1320
引受面積(ha)	-	287.3	300	310	320	350	400
面積引受率(%)	-	22.2	22.7	23.4	24.2	26.5	30.3
支払金額(千円)	-	-	-	-	-	-	-

【収入保険制度への加入目標】

	H30	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	-	253	261	265	265	265	265
加入戸数	-	89	90	91	92	95	100
引受面積(ha)	-	666.9	670	675	680	695	720
面積加入率(%)	-	51.4	50.7	51.1	51.5	52.6	54.5

(参考情報⑥)

【作型別割合】

	夏植	春植	株出し
H17	7%	24%	70%
H18	11%	20%	69%
H19	9%	21%	70%
H20	9%	19%	72%
H21	8%	23%	70%
H22	5%	18%	77%
H23	8%	21%	71%
H24	6%	16%	78%
H25	7%	17%	76%
H26	7%	11%	82%
H27	7%	18%	75%
H28	7%	15%	78%
H29	5%	15%	79%
H30	4%	17%	79%
R元	5%	17%	78%
R2	4%	13%	83%
R3	3%	15%	82%
R4	4%	13%	83%
R5	2%	13%	85%
R6	3%	14%	83%
R17(目標)	7%	19%	74%

【株出し回数別面積】

	株出し回数別面積 (ha)										平均回数	
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回		
H17	363	274	144	27	9.8	3.4	0.4	1.2				1.86
H18	399	272	79	34	2.3							1.69
H19	424	295	113	16	3.9							1.69
H20	387	371	111	24	3.4	1						1.76
H21	401	307	180	25	4.8	2.2						1.84
H22	424	334	153	43	4	0.5						1.82
H23	339	348	132	31	6.6	0	0.5					1.86
H24	378	301	208	56	7.3	1.3	0.4					1.97
H25	325	327	177	70	16	2	1	0.5				2.06
H26	324	289	228	69	27	2.6	1.9					2.15
H27	242	277	197	105	29	16	0.6	0.1				2.37
H28	327	225	192	105	40	10	12	0.7				2.33
H29	288	312	166	106	34	11	4.1	14				2.37
H30	302	278	216	80	51	9.2	6.2	5.3				2.35
R元	311	288	216	96	38	29	4.8	7.5				2.40
R2	322	291	224	134	53	24	18	6.5				2.52
R3	276	306	238	136	56	26	7.5	17				2.61
R4	281	271	257	148	73	30	13	19				2.72
R5	285	275	225	173	84	37	38					2.78
R6	262	277	247	153	95	42	50					2.88
R17	260	270	240	130	40	20	20					2.55

(参考情報⑦)

【近年の品種別収穫面積の推移】

作型	夏植						春植						株出し						合計					
	品種	F161	Ni26	Ni27	Ni28	RK97-14	その他	F161	Ni26	Ni27	Ni28	RK97-14	その他	F161	Ni26	Ni27	Ni28	RK97-14	その他	F161	Ni26	Ni27	Ni28	RK97-14
H17	40	-	-	-	-	42	132	-	-	-	-	147	370	-	-	-	-	452	542	-	-	-	-	642
H18	51	-	-	-	-	72	64	-	-	-	-	162	75	-	-	-	-	712	189	-	-	-	-	946
H19	43	-	-	-	-	68	180	-	-	-	-	74	596	-	-	-	-	255	819	-	-	-	-	397
H20	63	24	-	0.5	-	33	137	28	-	1.5	-	68	590	25	-	0.5	-	282	790	77	-	2.5	-	383
H21	42	29	-	14	-	15	156	48	-	26	-	70	560	73	-	6.2	-	280	758	151	-	46	-	365
H22	15	-	-	25	-	16	60	21	-	94	-	51	496	138	-	61	-	263	571	159	-	180	-	329
H23	11	15	-	44	-	20	19	35	-	144	-	58	309	115	-	202	-	230	339	165	-	390	-	308
H24	3.5	15	-	34	-	26	32	35	-	77	-	53	197	146	-	381	-	228	232	197	-	492	-	308
H25	6.7	15	-	21	-	43	45	16	-	59	-	88	114	120	-	414	-	271	165	150	-	495	-	401
H26	6.5	2.1	-	15	-	53	13	31	-	32	-	49	116	118	-	401	-	306	136	151	-	448	-	409
H27	4.9	7.4	-	9.8	-	54	12	27	-	68	-	106	88	123	-	318	-	337	105	157	-	395	-	497
H28	10	1.4	0.4	14	5.8	47	9	20	2.9	23	92	35	74	125	0.5	301	18	393	93	146	3.7	337	115	475
H29	1.1	0.8	4.3	7.7	4.4	46	6.9	14	9.2	18	83	51	56	107	6.1	245	125	396	64	122	20	271	213	493
H30	2	4.2	0.4	6.2	10	23	5.5	17	13	19	99	55	39	95	20	198	229	367	47	117	33	222	338	445
R元	1.2	5.3	4.2	16	9.1	26	3.3	13	40	21	94	50	35	80	42	156	301	376	40	98	85	193	404	452
R2	0	1.5	20	4.6	3.3	25	1.8	13	68	8.7	40	37	25	83	94	147	370	354	27	98	183	160	413	416
R3	0	1.7	12	0	0.6	30	0.8	13	75	22	38	48	9.4	76	183	140	300	352	10	91	270	163	338	431
R4	0	3.1	13	0	4	34	0.6	3.9	63	8	46	51	4.4	77	263	124	268	356	5	84	340	132	318	442
R5	0	3.3	8.7	1.3	6.6	13	0	2.6	73	6.4	41	48	2.5	71	318	101	252	372	2.5	77	400	108	300	433
R6	0	1.1	18	0	12	15	0	2.5	64	5.3	80	34	1.5	56	360	84	264	362	1.5	60	442	89	356	411